

高等学校学習評価Q&A

保健体育科



教
学
一
如
女

教えることは 学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「学習指導要領解説」：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 保健体育編 体育編 文部科学省
「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成 31 年 3 月 29 日 初等中等教育局長通知
「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校保健体育】文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
「学習評価の在り方ハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年 6 月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
「答申」：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会
「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

また、本資料においては、年次の表記について、各年次等を以下のとおり統一して表記します。

1 年次 → 入学年次
2 年次 → その次の年次
3 年次以降 → それ以降の年次
2 年次以降 → その次の年次以降，入学年次の次の年次以降

高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントをまとめています。

高等学校学習評価Q&Aは、「指導と評価の一体化」について、先生方に分かりやすくガイドするために、以下のような工夫をしています。



1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、「参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

先生方が理解したり、自己点検したりできるように、各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らした評価規準の作成の手順や評価における留意点、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化しています。

評Q2 外国語科の評価の3観点とは何ですか。

学習指導要領における各教科等の目標と評価の観点の関連等についてQ&A形式でガイドしています。

「答え」に係る補足説明や「参考資料」などのページがコンパクトに示してあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。



3 簡単アプローチ

教科等ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に役立ててください。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「参考資料」の該当するページを意味しています。

目 次

評Q1	高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。	1
評Q2	保健体育科の評価の3観点とは、何ですか。	2
評Q3	保健体育科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。	5
評Q4	評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	10

保健体育科（共通）

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- ☐ 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- ☐ 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- ☐ 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- ☐ 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたこと、また、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- ☐ 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- ☐ 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- ☐ 評価の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができている。
- ☐ 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- ☐ 「指導と評価の一体化」を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- ☐ 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行
学習評価 第1号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けて」

<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】



「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第2号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けてⅡ」

<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】



併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
「教育資料」内の「学習評価」の
学習評価の基本的な考え方
高等学校 学習評価について

<https://bit.ly/3lvrBtf>



「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料
第1編 総説

【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>



保健体育科

評 Q2 保健体育科の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、指導と評価の一体化を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

ここでは、特に次の疑問などに答えます。

- ☐ 保健体育科の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- ☐ 「**内容のまとめ**りごとに評価」するための、保健体育科の**内容のまとめ**りとはどのようなものだろうか。



1 評価の観点及びその趣旨

○ 教科の「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編2には、学習指導要領の保健体育科の目標とそれを踏まえた教科の「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（p.30）。教科の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は次のとおりです。

【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨＜保健体育＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、 <u>個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</u>	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、 <u>個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</u>	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、 <u>健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</u>

（「改善等通知」 別紙5 p.2 ※下線は筆者が追加）

保健体育科の「評価の観点及びその趣旨」は、主に、実線は「体育」、波線は保健と読むことができます。

観点ごとに見ると、「体育」の「知識・技能」は「運動の合理的、計画的な実践」、「生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論」、「目的に応じた技能」、「思考・判断・表現」は「課題に応じた運動の取り組み方」、「目的に応じた運動の組み合わせ方」、「主体的に学習に取り組む態度」は「運動の楽しさや喜び」、「実践に主体的に取り組む」などがキーワードであると考えられます。

また、「保健」の「知識・技能」は「個人及び社会生活における健康・安全」、「思考・判断・表現」は「個人及び社会生活における健康に関する課題」、「主体的に学習に取り組む態度」は「自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくり」がキーワードであると考えられます。

○ 科目の「評価の観点及びその趣旨」の作成（シラバス作成や評価に向けて）

各学校では、上記の教科の「評価の観点及びその趣旨」と科目の目標、そして生徒の実態等に応じて、**各科目の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**シラバス等では、科目の目標に加えて、この科目の「評価の観点及びその趣旨」を併せて記載することが考えられます。なお、保健体育科では、「参考資料」（p.31）に「『第2款 第1 体育』の評価の観点の趣旨（例）」が示されています（「保健」はp.36）。各学校で作成する際の参考にしてください。

2 「内容のまとまり」

1で示した評価の3観点は、「内容のまとまり」ごとに評価します。「内容のまとまり」とは、「学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたもの」とされています（第1編第2章のpp.15-16参照）。

保健体育科の「内容のまとまり」は、以下のように示されています。

第1 体育		第2 保健
〔入学年次〕 A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	〔入学年次の次の年次以降〕 A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方	(1) 現代社会と健康 (2) 安全な社会生活 (3) 生涯を通じる健康 (4) 健康を支える環境づくり A～Hや(1)～(4)の一つ一つが、「内容のまとまり」です。 

※ 高等学校学習指導要領第2章第6節 保健体育 第2款「第1 体育」における「2 内容」には、〔入学年次の次の年次以降〕の内容のみ記されていますが、本資料（「参考資料」含む。）においては、〔入学年次〕についても「内容のまとまり」として扱うこととします。

「参考資料」には、内容のまとまりごとの評価規準の作成について、「体育」、「保健」のそれぞれにおいて、例を示しながら簡潔に次の3点が示されています。参照してください。

〈例1：「体育」入学年次の次の年次以降「B 器械運動」〉

- 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.32））
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント（第2編2②（1）（pp.33））
- 「内容のまとまりごとの評価規準（例）」（第2編2②（2）（pp.34-35））

〈例2：「保健」入学年次及びその次の年次「(2)安全な生活」〉

- 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.37））
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント（第2編2②（1）（pp.38））
- 「内容のまとまりごとの評価規準（例）」（第2編2②（2）（pp.39-40））

各学校においては、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元の評価規準を作成します。

作成の際には、「内容のまとまり」ごとの**目標を確認**しましょう。

「体育」のA～Gは、目標の(1)が「知識及び技能（運動）」に関する内容、(2)が「思考力、判断力、表現力等」に関する内容、(3)が「学びに向かう力、人間性等」に関する内容となっています。ただし、H（体育理論）は、目標のアが「知識」に関する内容、イが「思考力、判断力、表現力等」に関する内容、ウが「学びに向かう力、人間性等」に関する内容となっています。

「保健」は、アが「知識」又は「知識及び技能」に関する内容、イが「思考力、判断力、表現力等」に関する内容となっています。**「保健」は、「学びに向かう力、人間性等」に関して示されていないので、該当科目（保健）の目標(3)を参考にして作成**します。

(1)～(3)やア～ウの項目だけでなく、「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認し、その目標の文末を見ると、評価すべきことを確認することができます。よく確認してから評価規準を作成しましょう。（次頁に、「体育」、「保健」の例をそれぞれ示しています。）

○ 「体育」「B 器械運動」の「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。

- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

- (3) 器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を贈えようとする、互いに助け合い高め合おうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。

(実線) …知識及び技能に関する内容

(波線) …思考力、判断力、表現力等に関する内容

(破線) …学びに向かう力、人間性等に関する内容

○ 「保健」「(2)安全な社会生活」の「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係

- (2) 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。

(7) 安全な社会づくり

安全な社会づくりには、環境の整備とそれに伴った個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わる。交通事故には補償をはじめとした責任が生じる。

(4) 応急手当

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法がある。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要がある。

心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。

イ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

(実線) …知識及び技能に関する内容

(波線) …思考力、判断力、表現力等に関する内容

※ 「保健」は、「学びに向かう力、人間性等」に関して示されていません。該当科目（保健）の目標(3)を参考にして評価規準を作成します。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校保健体育

第2編 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の手順

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/30SbJhG>



保健体育科

評 Q3 保健体育科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。

評 A3

保健体育科における評価の進め方は、「参考資料」第3編第1章1（p.43）に、次のように示されています。

- 1 単元の目標を作成する。
- 2 単元の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 観点ごとに総括する。



【第3編第1章～】

<https://bit.ly/3kxqsk9>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードからの「参考資料」のデータをお読みください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- ☐ 単元の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- ☐ 評価の場面は、授業の観察、ペーパーテスト、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法や課題の設定の工夫などについて、まだしっかりと理解していない。
- ☐ 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



1 単元の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2では、「単元の評価規準の作成のポイント」について、事例を基に説明しています。特に、以下の観点から保健体育科の目標や内容、授業づくり、観点別学習状況の評価を含めた評価の方針や方法について、**教員相互の共通理解**が極めて重要です。

【保健体育科】

- ・ 生徒の実態に即した多様な教育活動の展開が求められている。
- ・ 指導要録への観点別学習状況の評価を含めた記載が求められている。

【科目体育】

- ・ 運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容の充実への対応が求められている。
- ・ 共通性の確保の観点から義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることが重視されている。
- ・ 複数教員が複数種目等の授業を行う男女共習を原則とした選択制授業の実施が求められている。

【科目保健】

- ・ 生涯を通じて自他や社会の健康課題を解決するための資質・能力の育成が求められている。
- ・ 中学校との接続を重視し、小中高の系統性を踏まえた指導の充実が求められている。

(1) 「単元」とは

「答申」では「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一まとまりのこと」としています。科目ごとには、【科目体育】については「参考資料」の（pp.44-52），【科目保健】については（pp.52-55）に、例を示しながら単元ごとの目標及び評価規準の設定方法が書かれています。

(2) 科目体育

同じ「内容のまとまり」であっても、**学期ごと**に単元とする場合と**複数の学期にまたがるもの**を単元と捉える考え方があります。また、選択制の授業において、**複数の領域から選択した一つの領域の内容**を単元と捉える考え方もあります。年間指導計画を作成する際は、「参考資料」の（p.45）の例を参考に、単元の配当時期や学習内容の関連、学習状況をフィードバックするタイミング等を検討し、単元の規模や評価の時期について検討しましょう。

各単元における「単元の評価規準」設定の手順は以下のようになります。

手順 1	内容のまとまりごとに指導内容を配置する。 〔カリキュラム・マネジメント（指導事項を重点化する。）〕
手順 2	全ての「単元の評価規準」を作成する。
手順 3	「単元の評価規準」を選択したり，作成したりするなどして当該単元の評価規準を設定する。

学習指導要領解説の〈例示〉から「単元の評価規準」を作成する方法は以下のようになります。

知識	例示の文末を (a) 「～について，言ったり書き出したりしている」 (b) 「～について，学習した具体例を挙げている」 に変換するなどして作成する。 (a) 一般的に認知された科学的な知識等を内容とするもので，各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。 (b) 学校や生徒の実態に合わせて，指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。
技能	例示の文末を「～ができる」に変換するなどして作成する。
思考・判断・表現	例示の文末を「～している」に変換するなどして作成する。
主体的に学習に取り組む態度	例示の文末を (a) 「～しようとしている」 (b) 「～を確保している」 に変換するなどして作成する。 (a) 意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いている。 (b) 「健康・安全」の観点については意欲をもつことにとどまらず，実践することが求められているものであることから文末の表記を変更している。 (解説 p. 39 参照)

詳細は，「参考資料」の (pp. 47-49) に，例を示しながら説明してあります。

また，指導と評価を一体的に進めるに当たっては，指導を充実させた上で評価を行うことが重要であることから，学習指導要領解説に示された指導内容ごとの留意事項等について十分に配慮した授業づくりが求められています。「参考資料」の (pp. 50-51) に，授業づくりの留意事項をまとめてありますので確認しましょう。

(3) 科目保健

科目保健では，**内容のまとまりをそのまま**「単元」として捉える場合と，内容のまとまりを**いくつかの「単元」に分けて**単元設定する場合が想定されます。「参考資料」の (p. 52) に高等学校科目保健の単元設定例がありますので，参考にしてください。

「単元の評価規準」を作成する方法は以下のようになります。

知識	学習指導要領解説における「2 内容」の記載を基に評価規準を作成する。その際，保健の技能はその行い方についての知識の習得と併せて指導することが大切であるため，原則や概念に関する知識に加えて，該当する技能についての行い方に関する知識も評価規準に加筆することも考えられる。 解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について，理解したことを言ったり書いたりしている」として評価規準を作成する。
技能	解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，（～が）できる」として，評価規準を作成する。
思考・判断・表現	学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力，判断力，表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際，〈例示〉に記載された内容を踏まえるとともに，実際の学習活動に合わせ，文末を「～している」として作成する。
主体的に学習に取り組む態度	改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ，文末を「～しようとしている」として，評価規準を作成する。

詳細は，「参考資料」の (pp. 54-55) に，例を示しながら説明してあります。

2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 単元に応じた評価基準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

○ 保健体育科の事例の特徴

保健体育科では、事例は全部で九つ示されています。「参考資料」第3編第2章2（pp.57-58）にまとめられていますので、参照してください。以下は、保健体育科の事例の特徴です。

- 科目体育と科目保健の「指導と評価の計画」から評価の総括までの考え方をそれぞれ示している。
- 科目体育と科目保健の評価について、評価する時期や場面について、観点別に特徴のある事例をそれぞれ示している。
- 評価基準を作成する際の手順や評価情報の収集などの評価方法の工夫について事例を示している。

○ 各事例の特徴

事例	科目等	内容のまとめ等 (年次)	キーワード等	備考
1	保健体育科 科目体育	「器械運動」 (それ以降の年次)	「指導と評価の 計画」から評価 の総括まで	・ 「単元の評価基準」の作成及び指導 と評価の計画の作成の手順 ・ 観点別学習状況の評価の総括及び評 定への総括
2	保健体育科 科目体育	「武道(剣道)」 (入学年次)	「知識・技能」 の評価	・ 「知識及び技能」についての指導と 評価の工夫例 ・ 「知識・技能」の観点別学習状況の評 価の総括
3	保健体育科 科目体育	「体づくり運動」 (それ以降の年次)	「思考・判断・表 現」の評価	・ カリキュラム・マネジメントの視点 からの指導の充実 ・ I C Tを活用した効果的な評価情報 の収集の工夫や実現状況の判断の目安
4	保健体育科 科目体育	「球技」 (その次の年次)	「主体的に学習 に取り組む態度」 の評価	・ 「一人一人の違いに応じたプレイな どを大切にしようとすること」(共 生)を取り入れた事例 ・ 指導と評価の一体化の実現に向けた 指導の充実や評価情報の収集と評価結 果のフィードバックの方法の工夫
5	高等学校体育科 専門学科「体育」	「スポーツ総合演 習」 (その次の年次)	「〔科目〕の評価 基準」を作成する 際の手順	・ 「〔科目〕の評価基準」を踏まえ た、単元の評価基準や指導と評価の計 画の作成、評価情報の収集の工夫
6	保健体育科 科目保健	「環境と健康」 (その次の年次)	「指導と評価の 計画」から評価 の総括まで	・ 科目保健の指導と評価の全体像 ・ 「単元の評価基準」及び「指導と評 価の計画」の作成の手順 ・ 観点別学習状況の評価の総括
7	保健体育科 科目保健	「応急手当」 (入学年次)	「知識・技能」 の評価	・ 「知識」と「技能」の内容を関連付 けて指導と評価を行う具体例 ・ ワークシートやI C T等を活用した 指導と評価の工夫
8	保健体育科 科目保健	「労働と健康」 (その次の年次)	「思考・判断・表 現」の評価	・ 習得した知識を活用 ・ 効果的な評価情報の収集の工夫や評 価の判断の目安
9	保健体育科 科目保健	「生活習慣病など の予防と回復」 (入学年次)	「主体的に学習 に取り組む態度」 の評価	・ 学習指導要領解説等に基づいた評価 基準の設定 ・ ワークシートの活用や授業時の観察 による評価

※ 科目保健の履修学年は、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修することとなっています。上記の事例6～9は、仮の年次です。各学校で検討の上、年間指導計画を作成し、単元の配置時期を決定してください。

3 総括の方法

総括については、単元などの総括と学期末における総括が考えられます。以下を参照ください。

(1) 単元などの総括

単元などの総括については、各事例の最後にその方法や考え方等が示されています。例えば、事例1では、「参考資料」の(p.66)に次の例があります。下の表は、A[○]、A、B、C、C[△]の5段階で判断する方法です。各学期での総括や評定への総括の際の検討の視点の例を吹き出しで示しています。(A[○]を5、Aを4、Bを3、Cを2、C[△]を1として数値化した例)

表 A高校における年間指導計画の入学年次1学期の総括時の検討例

単元名		体づくり運動		体育理論		全領域選択Ⅰ (器械運動)		総括(平均点) <比率%>		評定 (平均値)
時間数		5		3		18				
項目		評価	評価 規準数	評価	評価 規準数	評価	評価 規準数			
生徒X	知	B B (3)(3)	2	A A (4)(4)	2	B B A (3)(3)(4)	3	A or B (3.43)	A or B (3.80)	4 or 3
	技					A [○] A [○] A [○] (5)(4)(5)	3	A (4.67)	<xx%>	
	思	A A (4)(4)	2	A (4)	1	A B B B (4)(3)(3)(3)	4	A or B (3.57)	<xx%>	
	態	B (3)	1		0	A A A [○] (4)(4)(5)	3	A or B (4.00)	<xx%>	

学期をまたいだ領域の扱い

観点別学習状況の評価の3段階評価 or 5段階評価

評価規準の数

3観点の総括の比率

評定への総括の考え方

※ 体づくり運動は1学期と2学期に分割して、体育理論は1学期と3学期に分割して実施しているが、この例ではそれぞれの学期で評価し総括している。

「参考資料」の(p.83)には、学期をまたいで実施した「体づくり運動」の評価を2学期に集約する例も示されています。3段階の評価方法など、様々な事例を「参考資料」の第3編に示してありますので、各学校の「年間指導計画」や「指導と評価の計画」に合わせて、計画的に評価していきましょう。

(2) 学年末の観点別学習状況の評価の評定への総括

単元等で評価を行った後に、学年末等に総括する方法が「参考資料」の(pp.18-19)に書かれています。この総括に当たっては、以下のことが大切です。

- ① 数値は、生徒の学習状況について五つに分類したものと捉えるのではなく、常にこの結果の背後にある**生徒の具体的な学習の実現状況**を思い描き、適切に捉えること。
- ② 各学校においては、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、**教師間で共通理解**を図り、**生徒及び保護者に十分説明**し理解を得ること。

4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

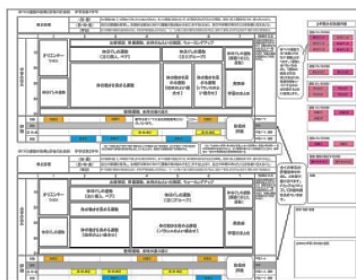
「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。「指導と評価の計画」の作成は、学習指導案の作成にもつながります。その際には、次の点に留意し、作成してください。

(1) 単元の目標と評価規準を設定して、単元の「指導と評価の計画」や本時の指導計画を作成する。

「指導と評価の一体化」の観点から、作成した評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても大切です。目標について、単元のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。科目体育の単元の「指導と評価の計画」は、「参考資料」の事例1(pp.59-66)の手順1～6を参考に作成してください。科目保健は、事例6(pp.107-109)に「指導と評価の計画」の例が示されています。

「指導と評価の計画」の作成をする際には、「参考資料」の事例を参考に学校独自で作成していきませんが、鹿児島県総合体育センターのWebページ(次頁に二次元コード掲載)から「指導と評価の計画作成シート」をダウンロードして作成できるようにもなっています。御活用ください。

【中学校・高等学校保健体育科】「指導と評価の計画作成シート」



- 1 PDF [使用マニュアル \(PDF : 247KB\)](#)
- 2 Excel [体づくり運動 \(EXCEL : 79KB\)](#)
- 3 Excel [器械運動 \(EXCEL : 103KB\)](#)
- 4 Excel [陸上競技 \(EXCEL : 98KB\)](#)
- 5 Excel [水泳 \(EXCEL : 99KB\)](#)
- 6 Excel [球技 \(EXCEL : 100KB\)](#)

7 Excel [武道 \(EXCEL : 106KB\)](#)

8 Excel [ダンス \(EXCEL : 100KB\)](#)



鹿児島県総合体育センターWeb ページ【中学校・高等学校保健体育科】「指導と評価の計画作成シート」

(2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を単元途中で確認する「**指導に生かす評価**」と主に単元の後半で行う観点別学習状況の評価のための「**記録に残す評価**」があります。単元目標は単元が終わるまでに達成できればよいので、「記録に残す評価」については、単元の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「**指導と評価の計画**」の中に明記しましょう。

(3) 具体的な学習の実現状況の例を示す。

単元の最初に目標を示す際には、達成してほしい学習の実現状況を**生徒に具体的に示したい**ものです。例えば、生徒の記入例や実際に活動を行っている様子（できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの）を示すと、生徒は目標とする学習の実現状況までの過程をイメージしやすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の実現状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これらは、「学習評価の在り方ハンドブック」(p.5)に示されている「**生徒の学習改善につながるものにしていくこと**」，「**教師の指導改善につながるものにしていくこと**」になります。

実現状況	生徒の入力フォーム（5時間目）記述例	
「十分満足できる」状況 (A)	①部活動以外であまり運動をしていないため、引退後の運動習慣に役立つよう1週間の計画を考えた。②無理なく継続できることが卒業後にもつながるし、健康増進にも役立つので、体の柔らかさを高める運動を効率よく組み合わせた計画とバランスよく体力の要素を取り入れた計画を作成した。③3ヶ月ごとに運動例を見直す予定である。	① (あ)自己の目的の分析に将来の視点がみられる ② (い)(う)運動の計画の知識の応用、保健学習の視点 ③ (あ)運動の計画の見直し 上記①～③の記載より、(あ)～(う)の知識を有効に活用し立案していると判断
「おおむね満足できる」状況 (B)	①部活動以外であまり運動をしていないため、パワーアップを目的に力強さを高める運動で計画を作成した。 ②運動の計画では、ベンチプレスやスクワットを取り入れた。安全を考え、ストレッチから始めるようにして、③実施の間には、十分な休憩を入れるよう計画した。	① (あ)自己の目的の分析と計画作成の根拠がやや不明確と判断 ② (い)運動の計画の知識の応用が限定的 ③ (う)運動の計画の知識で安全の確保の記載 上記①～③の記載より、分析に不十分さはあるが、(あ)～(う)の視点を踏まえた立案と判断
「努力を要する」状況 (C)	①部活動以外であまり運動をしていないため、いろいろな運動をしたほうがよいと考えた。②授業の資料で提示されたメニューの中から、肩と腕のストレッチ、腕立て、スクワットを取り入れて計画した。	① (あ)自己の目的の分析と計画作成に根拠となる知識の活用が読み取れない ② (い)運動の計画の際の選択の理由が読み取れない 上記①～②の記載より、(あ)、(い)の視点ともに、説明の根拠が不十分と判断 また、(う)の視点が示されていない

「参考資料」(p.83) 事例3 (体づくり運動 生徒の入力フォームの記述例と実現状況の判断の具体例)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校保健体育

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3F8IFhm>



保健体育科（共通）

評 Q4 評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4 学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か，明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「A B B」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を 1:1:1 ではなく 1:2:1 とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動，総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について，生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第3号
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ
—よくある質問から—」
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】